



果樹型  
トレーニングファーム  
ガイドブック  
2026  
(令和8年3月版)

**MAFF**

Ministry of Agriculture,  
Forestry and Fisheries

農林水産省



# もくじ

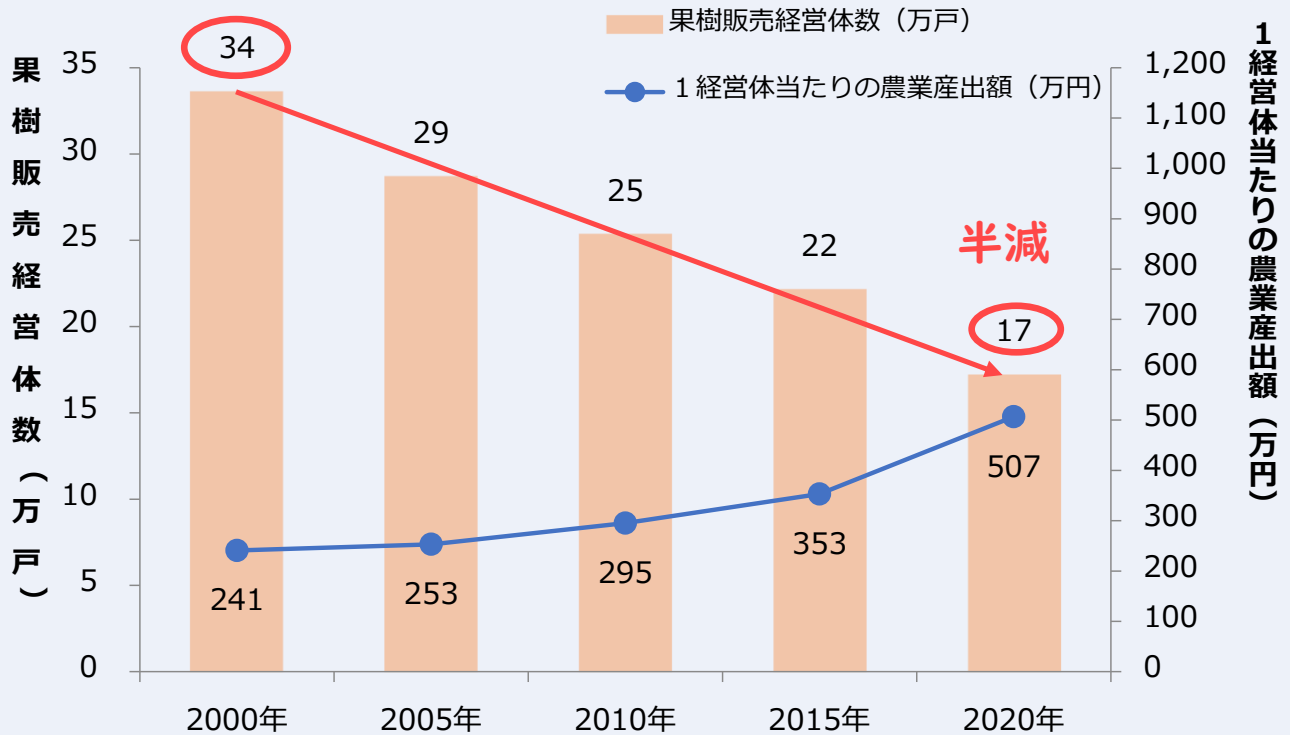
I	果樹農業における農業者等の現状	
1.	果樹農業の農業者等の現状	…2
2.	トレーニングファームの事例	…4
3.	果樹型トレーニングファーム・プラットフォーム	…6
II	果樹型トレーニングファームの設置、活用イメージ	
1.	果樹型トレーニングファームのイメージ	…7
2.	トレーニングファーム設置から活用に向けての 工程のモデル	…9
III	活用可能な農水省施策等の紹介	…11
IV	Q&A	…42

# I 果樹農業における農業者等の現状

## 果樹農業の農業者等の現状

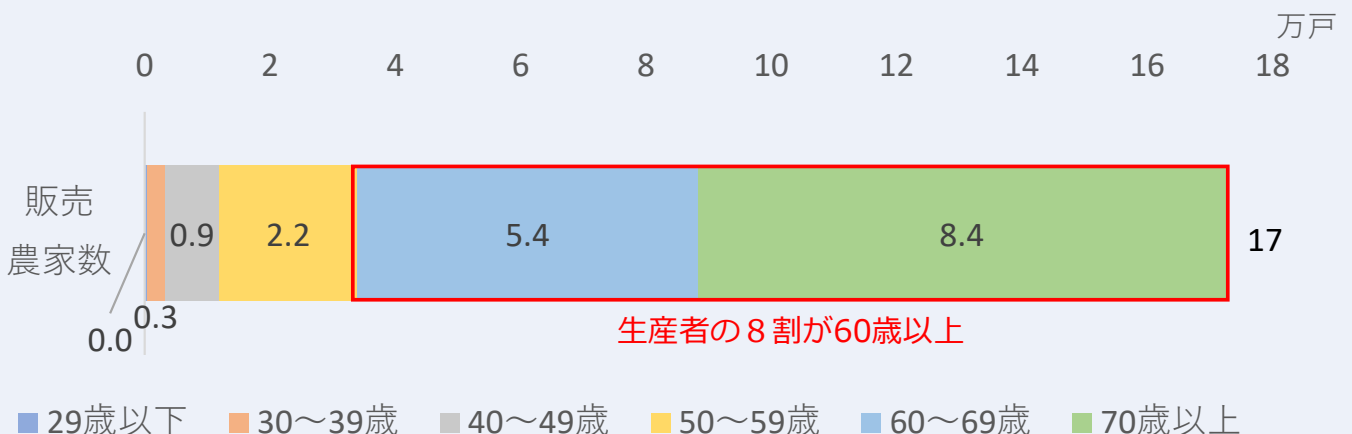
果樹の農業者等は、直近20年で半減しており、高齢化も進んでいることから、今後さらに減る見込みです。

### ◆ 果樹の販売農家数の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」  
 ※2000年までは販売目的の果樹栽培農家数、2005年センサスから販売目的の果樹栽培経営体数

### ◆ 経営者年齢別果樹の栽培農家数(販売農家)の割合



資料：農林水産省「2020年農林業センサス」

産地の維持・拡大には**農業者等の確保・定着に向けた取組を強化していくことが必要**ですが、果樹農業は

- ① 苗の定植から収穫まで数年かかり未収益期間がある
- ② 技術の習得や生産拡大に時間を要する
- ③ 他の作物に比べて面積当たりの労働時間が長い
- ④ 労働ピークが収穫等の短期間に集中する、

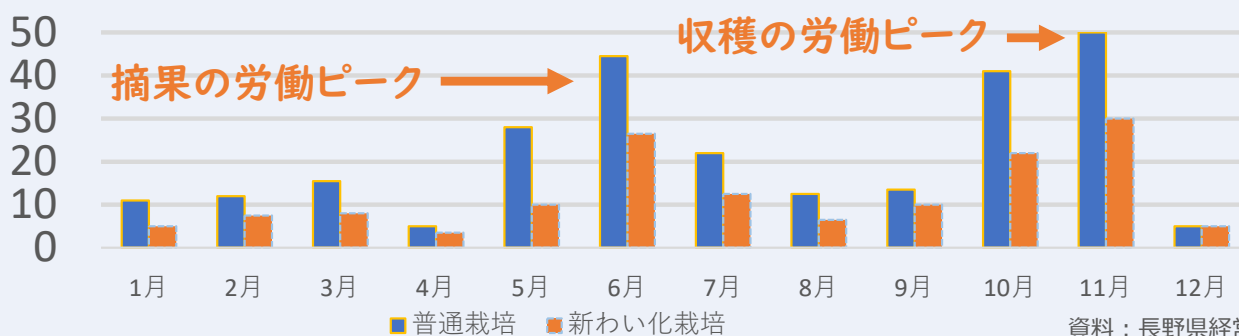
ことなどから、果樹の新規参入者は野菜に比べて少ないなど**農業者等の確保が遅れています**。

### ◆ 果樹と他品目の労働時間の比較

ぶどう 529 時間/10a	りんご 255 時間/10a	米 32 時間/10a	ばれいしょ 11 時間/10a
----------------------	----------------------	-------------------	-----------------------

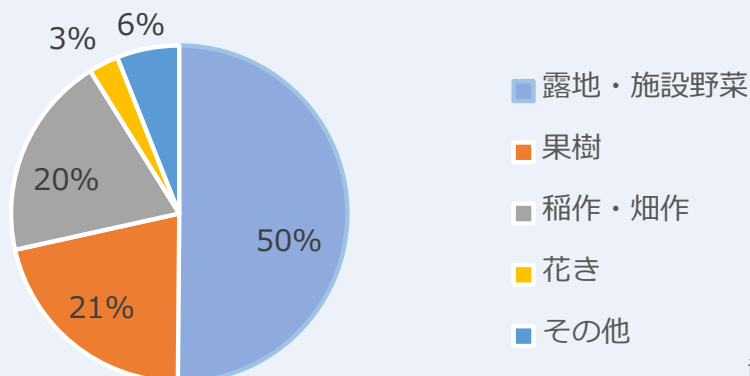
資料：農林水産省「令和5年営農類型別経営統計」  
農林水産省「令和5年農業経営統計調査」

### ◆ りんご(ふじ)の月別作業時間(10aあたり)



資料：長野県経営指標

### ◆ 新規参入者が取り組む品目の割合



資料：農林水産省「令和5年新規就農者調査」

## 長野県佐久穂町

町が国の補助事業を活用して**研修ほ場を整備**、就農時にその**研修園地を継承**させることにより**円滑な就農**を支援。

## 佐久穂町新規就農サポートチーム

## &lt;佐久穂町&gt;

- **地域おこし協力隊**として雇用。
- 国の「果樹型トレーニングファーム推進条件整備事業」を活用し、**研修ほ場を整備**。
- 地元の果樹生産者（里親農家）に対し、**技術指導や研修ほ場の管理を有償委託**。



佐久穂町が整備した  
トレーニングファーム

## &lt;JA佐久浅間&gt;

- **技術指導・経営指導**の実施。
- 農地・農機具確保の支援。
- 金融相談の実施。

## &lt;里親農家&gt;

- 園地研修の実施。
- **研修ほ場の管理**。

## &lt;農業大学校&gt;

- 座学研修や勉強会の受入れ。

## &lt;佐久農業農村支援センター&gt;

- 営農計画作成への支援。
- ほ場整備への支援。

## 新規就農者



- **任期3年の地域おこし協力隊**退任後、**新規就農**
- 退任時に**研修園地を継承**

## 芦北地方農業振興協議会（熊本県）

JAが離農農家の園地を引き受けて研修園地を用意し、当該園地での実践**研修**や**継承**、**住居の斡旋**等の生活面もサポート。

## 新たな担い手確保対策プロジェクトチーム

- JAあしきた、市町、農業委員会、熊本県芦北地域振興局等で構成。
- 就農希望者誘致から、技術習得、就農までワンストップで就農支援を実施。



- JAあしきたが離農園地を引き受け、研修園地として活用。
- JAあしきた職員や普及指導員が技術研修を実施。

- 就農後も農地や資金、技術等の相談指導。



- 農業体験を通じた研修生の募集。
- 住居の斡旋など生活面もサポート。

## 新規就農者



- 1～2年の研修後に、研修園地を継承し、就農。

## (株) あぐりフルーツ (山梨県)

J A 出資の農業法人が自治体と連携し、地域おこし協力隊制度を活用した研修生の雇用、園地ののれん分け等により就農支援。

## (株) あぐりフルーツ



- 令和4年設立。
- J A フルーツ山梨出資の農業生産法人。
- 自ら果樹生産、耕作放棄地の解消、作業受託等に取り組みつつ、研修生を支援。



- 研修生の受入や、研修目的による雇用。
- 就農希望者へ園地斡旋のほか、職員へののれん分け。
- 経営開始後の支援。

## 新規就農者



- 任期3年の地域おこし協力隊退任後、新規就農
- 退任時にあぐりフルーツから園地ののれん分け

甲州市  
(農林振興課)

- 地域おこし協力隊として雇用
- 支援機関(あぐりフルーツ)に指導、活動経費を支給
- 就農相談、情報発信等

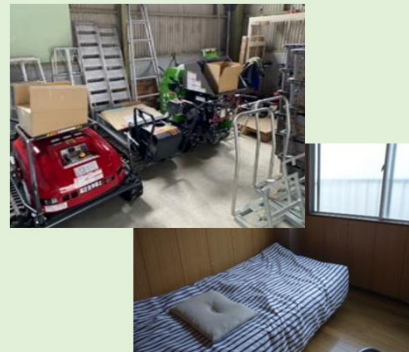
## みかん学校 (愛媛県)

J A が就農支援体制を整備し、整備した園地での実践研修や、園地ののれん分け、農機具や住居の斡旋等の生活面もサポート。

## みかん学校



- 令和6年設立。
- J A えひめ南の就農支援の取組。
- 園地研修のほか、座学や就農相談等を実施。



- 宿泊施設や移住体験住宅を整備、農業体験を通じた研修生の募集。
- 中古農機具や倉庫等を斡旋。
- 住居の斡旋など生活面もサポート。



- 自ら研修園地を借入、整備し、研修終了後は園地ののれん分け。
- 就農後も農地や資金、技術等の相談指導。

## 新規就農者



- 1~2年の研修後に就農。
- 親の所有地や斡旋園地の他、みかん学校から研修園地ののれん分け

全国の果樹の担い手の育成・確保の関係者の情報交換・連携強化の一助となるよう、**果樹型トレーニングファーム・プラットフォーム**を公開しています。

<https://www.japanfruit.jp/producer/trainingfarm.html>

プラットフォームでは、以下の情報を参照することができます。

- ①地図ベースの果樹型トレーニングファームの一覧表示  
(名称、連絡先等の基本情報付き)
- ②全国実態(アンケート)調査結果
- ③現地事例調査(成果事例・研修教材・導入マニュアル等)

公益財団法人  
中央果実協会

文字サイズ 小 中 大 サイト内検索

ホーム 協会概要 生産者支援対策 外食加工流通業者との連携 果実消費拡大 果実・果樹情報 調査報告・刊行物

ホーム > 生産者支援対策 > 果樹型トレーニングファーム

生産者支援対策

- > 果樹農業生産力増強総合対策
- > 果樹技術・経営コンクール
- > 担い手の育成・活躍表彰
- > 果樹型トレーニングファーム
  - 農事組合法人となん／岩手県盛岡市
  - 株式会社 RED APPLE
  - 岩手県 釜淵町
  - ふくしま未来農業協同組合
  - 茨城県 下妻市
  - 有限会社 大橋さくらんぼ園
  - 北つくば農業協同組合
  - 公益財団法人 鯉淵学園 鯉淵学園農業栄養専門学校
  - 栃木県 那須烏山市
  - 栃木県 那須塩原市
  - 公益財団法人 東松山市農業公社
  - 株式会社 ファーマインド農園
  - チハニアン農業学校
  - 一般財団法人 南房総農業支援センター
  - 内田フルーツ農園
  - 豊国園

果樹型トレーニングファーム (候補を含む)

北海道  
青森  
秋田 岩手  
東北  
山形 宮城  
北陸  
石川 富山 新潟  
福井  
滋賀  
岐阜  
長野 群馬 栃木 茨城  
関東  
山梨 東京  
静岡 神奈川  
千葉  
東海  
愛知 三重  
徳島  
香川  
四国  
高知  
徳島  
兵衛 京都 奈良 和歌山  
中国  
山口 広島 岡山  
九州  
福岡 大分 熊本 宮崎  
鹿児島  
沖縄

> 全国実態(アンケート)調査結果

> 果樹型トレーニングファームへのお問い合わせ

## Ⅱ 果樹型トレーニングファームの設置、活用イメージ

1

### 果樹型トレーニングファームのイメージ

後継者の確保が見込めない産地において、地域農業を振興するには地域の外から参入する方々を新規就農者として支えていくことが喫緊の課題です。しかし、これまでのように親元就農であれば問題にならなかったものの、果樹農業は新規参入にあたって

#### ① 園地の確保

#### ② 高度な技術の習得

#### ③ 未収益期間の収入確保

が他の品目と比べて大きなハードルになります。

産地を対象に行ったアンケート結果では、果樹農業の新規参入者の獲得に園地の確保や研修の実施、そしてこれらを包含し実地で研修を行うトレーニングファームの設置が有効であることが示唆されました。

新規就農者の確保、定着に向けて、JAや行政機関、先達となる農業者など地域の様々な関係者が連携して新規参入者を受け入れる体制をつくることが重要です。そして、トレーニングファームの整備は新規参入者を受け入れる取組の中核となります。

### ◆ 果樹型トレーニングファームのイメージ

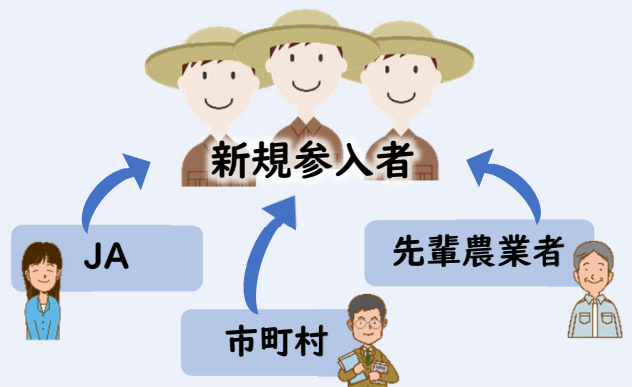


集約・整備



研修受入、  
園地確保

成園で研修・就農できる



地域の様々な関係者が  
伴走支援

実地研修には果樹の成園が必要となりますが、トレーニングファームの整備にあたっては、**産地によって離農者の園地を集約、整備して活用（居抜き）してコストを抑えるなど、産地の状況に応じて工夫がなされています。**また、**研修中に園地を用意して研修後に引き渡すなどの運用方法があります。**

状況に応じて、**産地それぞれの果樹型トレーニングファームをつくりあげましょう。**11頁、12頁では、国の助成制度を活用した設置から活用に向けてのモデルを掲載しているので、検討にあたってご活用ください。

## topics

### ◆ トレーニングファーム設置のメリット

#### ● 受入地域

- ・ 時間をかけて、新規参入者と接することができるとともに、支援すべき対象者や目標が地域の中で共有される。
- ・ 新しい農業を担う人と、これまでの経験のある人、お互いが学び成長するきっかけになり、産地の活性化につながる。
- ・ 匠の技術が地域で伝承される。
- ・ 地域の主力品目の生産が増え、ブランド力が増す。

#### ● 新規参入者

- ・ 地域を知る行事に参加でき、地域住民との繋がりを得ることで研修後の助け合えるネットワークをつくることができる。
- ・ 希望する地域で、農業経営の事業計画づくり、土地の手配、資金制度活用の準備ができる。

### 果樹型トレーニングファームの設置で好循環な果樹産地へ

